

学年	教科等	単元名	日時
第6学年	国語科	文章に対して考えたことをまとめよう (教材:イースター島にはなぜ森林がないのか)	令和元年7月2日(火)6校時
本時における「深い学び」	筆者の述べ方の工夫を捉え、文章の内容と知識や経験を結び付けながら、原因に対する自分の考えをまとめていき、さらにその達成度を自己評価する学び		

言葉にかかわらせるための発問の工夫

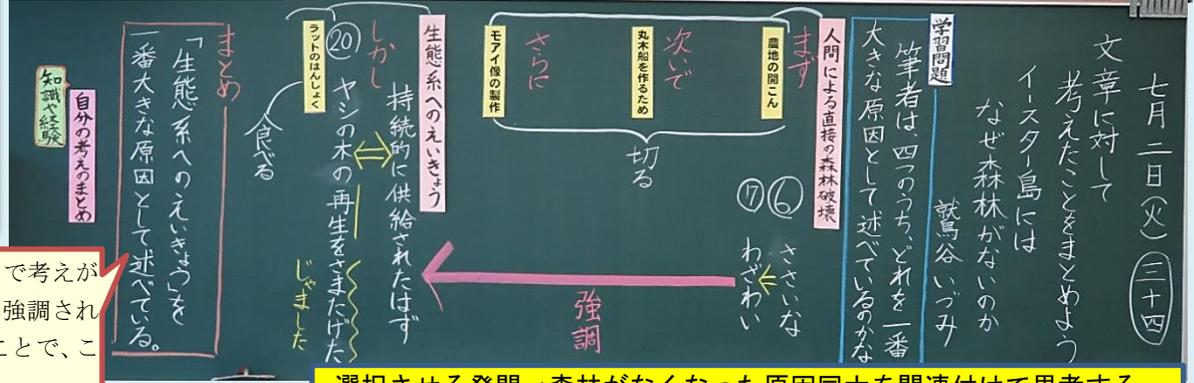
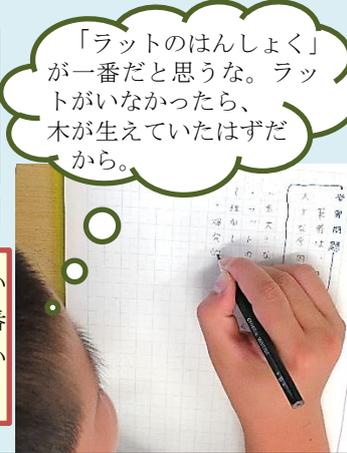
4つの原因のうち、「筆者はどれが一番大きな原因だと思っているのかな。」と発問することで、事実と意見との関係を整理して、それぞれの原因を関連付けて捉えることができるようにした。



4つも原因を挙げているね。筆者はどれが一番大きな原因だと思っているのかな。

また、「『ラット』という言葉は初めて出てきたかな。」と発問することで、事前の段落でも出てきていることに気付かせ、後で起こることを予告するような筆者の述べ方の工夫を理解できるようにした。

「モアイ像」と「ラット」で考えが分かれたが、「ラット」だけ強調された述べ方をしているということで、このようなまとめをした。



選択させる発問→森林がなくなった原因同士を関連付けて思考する。

言葉の力をメタ認知させる手立て

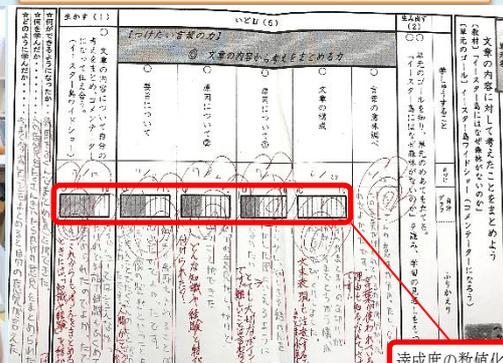
文章の内容と知識や経験を結び付けながら、一番大きな原因に対する自分の考えをまとめさせた。

ペアで考えを伝え合い、質問させ合うことで、客観的な視点で自分の考えを見つめ直すことができるようにした。

「文章の内容から考えをまとめられたか」という視点で達成度を自己評価させることで、言葉の力が身に付いているかを自覚できるようにした。

【国語科研究部が捉えたメタ認知の定義】

自分が行っている言語活動とおして言葉の力が身に付いているか客観的にふりかえり、達成度を自己評価して目標を再設定すること



ラットが増えたことで、森林等がなくなることがよく分かった。私の近くでも野良猫をよく見るけれど、生態系の影響なのかなと思った。いろいろなことが重なって、環境がこわれていくのだろうね。

自分が見たことを入れているので、考えがよく伝わってきたよ。

「文章の内容から考えをまとめる力」がどれくらい身に付いているか、毎時間ふりかえらせた。

ペアでの質問や感想の伝え合い→客観的に自分の言葉の力をふりかえる。

授業をふりかえって...

- 森林がなくなった原因を選択させる発問を行ったことで、原因同士を関連付けて思考していくなかで、言葉にかかわらせることができた。今後も、子どもの反応を具体的に予想しながら、言葉にかかわらせるために発問を精選していきたい。
- シンプルな指導過程にしたつもりであったが、子どもの実態に合った難易度の学習内容ではなかった。全員が考えられる学習内容を設定していかなければならない。

授業実践計画

○ 指導計画（8時間）

(1) 単元のゴールの姿から単元のめあて及び学習の見通しをもつ。_____	2時間
(2) 新出漢字や語句等の意味を確認し、文章の構成を捉える。_____	2時間
(3) 事実と意見との関係を押さえ、文章の内容について自分の考えをまとめる。_____	3時間
・ 4つの原因と結果について	1
・ 4つの原因のかかわり	1 (本時)
・ 要旨の把握	1
(4) 文章の内容について自分の考えをまとめ、コメンテーターになって伝え合う。_____	1時間

○ 本時の目標

筆者が一番大きな原因として述べていることを捉え、それに対する自分の考えをまとめることができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの原因の想起と分類 <ul style="list-style-type: none"> ・農地の開墾 ・丸木船の作成 ・モアイ像の製作 ○ 本時の学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> 筆者は、4つのうち、どれが一番大きな原因として述べているかな。 </div> <p>2 筆者が述べている一番大きな原因を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習範囲 (P3606 ~P39013) ○ 選んだ理由 <ul style="list-style-type: none"> ・ラットが増えたことじゃないかな。ラットが食べなかったら、ヤシの実も残ったはずだから。 <p>3 筆者が述べている一番大きな原因について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一番大きな原因 <ul style="list-style-type: none"> ・ラットの繁殖 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太い木を伐採したとしても、絶えず新しい芽が出てきたはず。 しかし ・ヤシの木の森林が再生することはなかった。ラットが、ヤシの木の再生をさまたげたらしいのだ。(生態系への影響) </div> <p>4 生態系への影響という原因について、自分の考えをまとめて伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 原因に対する自分の考え <ul style="list-style-type: none"> ・外来種という名前をテレビでもよく聞きますが、生態系への影響は恐ろしいですね。 等 <p>5 本時の学びをふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「文章の内容から考えをまとめる力」を基にした自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に学習した、森林がなくなった4つの原因を記したカードを提示する。4枚のカードを2つに分類させることで、人間による直接の森林破壊と生態系への影響という原因の意味を捉え直すことができるようにする。 ○ 「筆者はどれが一番大きな原因だと思っているのかな。」と発問することで、それぞれの原因を関連させながら、筆者の述べ方を考えていこうとする目的意識をもてるようにする。 ○ 一番大きな原因を選べない子どもには、「森林はもう生えてこないのかな。」と問いかけることで、「再生」という言葉に着目させ、ラットの繁殖が原因ではないかという見通しをもてるようにする。 ○ 「筆者は、どんな述べ方をしているのかな。」と問いかけることで、内容だけではなく、述べ方にも着目して選んだ理由を考えられるようにする。 ○ 「しかし」の前後の文の意味を比較させることで、生態系への影響が森林をなくした一番大きな原因として述べられていることを捉えられるようにする。 ○ 「『ラット』という言葉は初めて出てきたかな。」と発問することで、段落⑥と⑦でも「ラット」という言葉があり、後で起こる大きな災いを予告するような筆者の述べ方の工夫を理解できるようにする。 ○ 自分の考えをまとめる際に、文章の内容と知識や経験を結び付けさせることで、原因に対する自分の考えの根拠を明確にできるようにする。 ○ 考えをまとめた後に、ペアで互いの考えを伝え合い、質問させることで、客観的に自分の考えを見つめ直すことができるようにする。 ○ 「文章の内容から考えをまとめられたか」という視点で達成度を自己評価させることで、言葉の力が身に付いてきているかを自覚できるようにする。

○ めざす子どもの姿

「しかし」という言葉の前後で、人間が直接行った森林破壊よりも、生態系への影響が大きな原因であるということが分かるね。ささいな出来事が、大きな災いをもたらすこともあるんだね。私にも似たようなことがあったな。

【思考・判断・表現】



○ 単元指導計画（8時間）

段階	主な学習活動及び学習内容 ※ 吹き出しは予想される子どもの問題意識や目的意識	教師のかかわり	具体的な評価規準
生み出す	<p>1 単元のゴールの姿から単元のめあてを設定する。 <1時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身に付けたい言葉の力 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 文章の内容から考えをまとめる力 ○ 単元のめあて <p>事実と意見との関係に注意しながら読み、文章の内容から考えたことをまとめよう。</p> <p>コメントーターになるには、情報と知識や経験を結び付けて、考えをまとめていかないといけない。まずは、教科書の内容をよく理解してみよう。</p> <p>2 教材を通読し、学習の見通しをもつ。 <1時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 初発の感想 ○ 学習の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワイドショーの写真を提示し、コメントーターが情報に対して、知識や経験を結び付けながら自分の考えを発言していることを捉えさせる。そのうえで、「みんなもコメントーターのように考えを言えるかな。」と問いかけることで、自分の考えをまとめてコメントーターになるという単元のゴールへの意欲を高められるようにする。 ○ 原爆ドームをテーマにした資料を読ませて、試しにコメントーターにならせることで、文章の内容と知識や経験を結び付けて考えをまとめることへの必要感をもてるようにする。 ○ 題名読みを行い、イースター島の様子を想像したうえで音読させる。初発の感想を交流し合わせることで、文章の内容に対する考えを広げ、単元のゴールへの見通しをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の内容から考えたことを伝え合うことに関心をもち、事実と意見との関係を押さえながら読むことに意欲をもっている。(態度)
挑む	<p>3 新出漢字や語句等の意味を確認し、文章の構成を捉える。 <2時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新出漢字や語句、文末表現の意味 ○ 文章の構成 <p>「序論・本論・結論」にはどんなことが書かれているのかな。</p> <p>4 事実と意見との関係を押さえ、文章の内容について自分の考えをまとめる。 <3時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの原因と結果について(1) <p>森林がなくなった原因はいくつあるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの原因のかかわり(1) <p>4つのうち、どれが一番大きな原因になるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 要旨の把握(1) <p>これまでの原因の述べ方から考えると、筆者が述べたいことの内容は、生態系の影響に関するんじゃないかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新出漢字や「はんしょく」等の語句、「○○されたはずである。」といった文末表現の意味を確認させることで、語句と語句との関係に着目したり、事実と意見を整理したりできるようにする。 ○ 27個ある形式段落の番号カードを動かしながら意味段落に分けさせ、意味段落に名前を付けさせることで、文章の構成を捉えられるようにする。 ○ 教材の内容を解釈していく3時間は、一単位時間の後半で、文章の内容について知識や経験を結び付けながら考えをまとめさせることで、言葉の力を徐々に身に付けられるようにする。 ○ 自分の考えをまとめた後は、ペアで互いの考えを伝え合い、質問させ合うことで、客観的に自分の考えを見つめ直せるようにする。さらに、「文章の内容から考えをまとめられたか」という視点で達成度を自己評価させることで、言葉の力が身に付いてきているか自覚できるようにする。 ○ 森林がなくなった大きな原因がいくつあるか考えさせることで、「まず」「次いで」「さらに」という接続語に着目しながら、4つの原因を捉えられるようにする。 ○ 「筆者はどれが一番大きな原因だと思っているのかな。」と発問することで、それぞれの原因を関連させながら、筆者の述べ方を捉えられるようにする。 ○ 一番大きな原因である「生態系の影響」をキーワードにし、結論の文章を基に考えさせることで、要旨を把握できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実と意見との関係を基に、原因と結果について整理している。(思・判・表) ○ 「しかし」や「～らしい」といった語句の意味を理解し、考えをまとめる際に使っている。(知・技) ○ 筆者が述べている一番大きな原因を基に、要旨を把握している。(思・判・表)
生かす	<p>5 文章の内容について自分の考えをまとめ、コメントーターになって伝え合う。 <1時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 考えのまとめ ○ 単元のゴール「イースター島ワイドショー」 ○ 単元のふりかえり <p>なるほど。私たちが気付かずに、生態系の影響にかかわるようなことを生活のなかでしていたかもしれない。筆者が述べているように未来のことも考えなくてはいいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原因や結果、要旨を基にして、文章の内容と知識や経験を結び付けさせることで、筆者の考えに対する自分の考えをまとめられるようにする。 ○ まとめた自分の考えを基に、各自がコメントーターとなって、考えを伝え合う。その際、仲間の考えに対して、質問させたり感想を伝えさせたりすることで、考えを深められるようにする。 ○ この単元で「何ができるようになったか」「何を学んだか」「どのように学んだか」という視点でふりかえらせることで、身に付けた言葉の力を自覚できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の考えに対する自分の考えをまとめている。(思・判・表) ○ 「文章の内容から考えをまとめる力」が身に付いたと自覚している。(態度)

本時
2/3